

# 審査結果報告書

平成 29 年 2 月 8 日

主 査 氏 名 阿内 康雄



副 査 氏 名 西 山 和利



副 査 氏 名 堤 明紀



副 査 氏 名 鈴木 隆浩



DM13004

1. 申請者氏名 : 五十嵐 健

2. 論文テーマ : 初発心房細動の病期に関する研究

3. 論文審査結果 : 心房細動は临床上最も多く認められる不整脈であり、合併症として心源性脳血栓塞栓症を惹起し患者の生命予後や QOL に多大な影響を及ぼす。心房細動の臨床病期は発作性、持続性、永続性に分類され病期により治療法が異なる。特に根治的治療であるカテーテルアブレーションを速やかに行うために臨床病期を判断するための臨床指標が必要となる。実際の臨床現場で最も問題になるのは過去の情報がない、新規に受診した患者の心房細動の病期判定である。申請者らは以前からこの問題に取り組んでおりすでに 12 誘導心電図の P 波解析が重要なポイントであることを提示している。この研究を基に行った今回の新規発症心房細動患者の臨床的検討から、病期判定に有用な指標が 2 点提示された。1 点目は詳細な P 波解析から II, V1 誘導の P 波幅の dispersion ( $>65$  msec)、2 点目は左房径 ( $>42$  mm) である。統計学的解析ではこの 2 つの指標を組み合わせることで高い感度 (0.953) を持って、特に持続性心房細動の判別に有用であることを示した。新規受診の心房細動患者の病期判別の臨床指標を新に提示した点において評価されるべき臨床研究である。しかし、当論文の結論を臨床現場へ応用するためには課題もいくつか残されている。申請者も十分に理解しているが、他施設大規模調査やより詳細な電気生理学的検索が必要とされる。公開審査の討議では申請者による発表の後の副査および主査の結果や考察、今後の課題に対して広範な質問が出されたが、おおむね適切に回答し申請者の学識の高さを示した。副査および主査は学位論文の内容に加えて、質疑応答の適確さから、医学博士の学位に相応しいと判断した